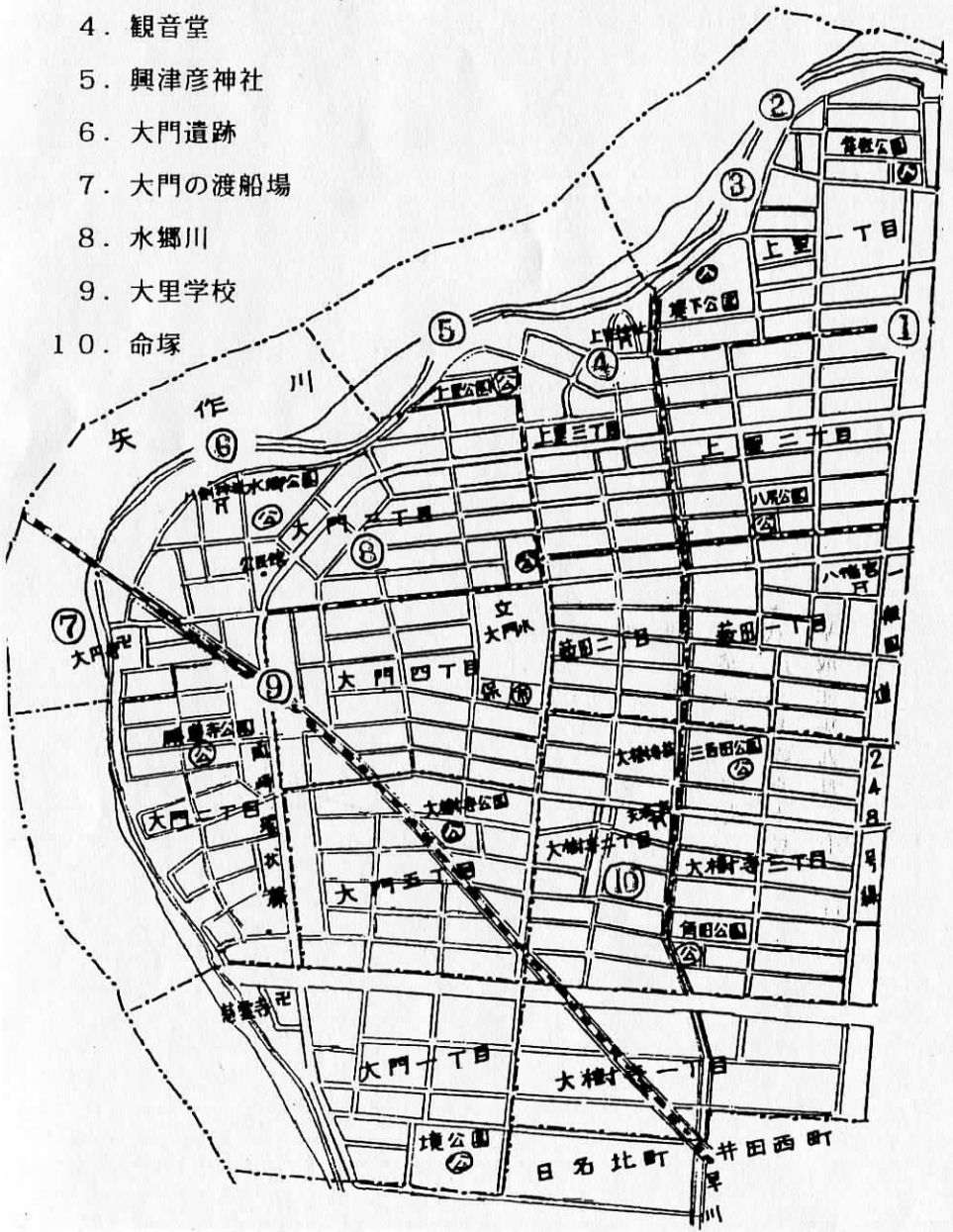
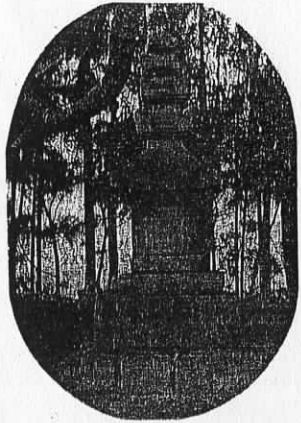


1. 味噌滓岩遺跡
2. 住吉神社
3. 上里の渡船場
4. 観音堂
5. 興津彦神社
6. 大門遺跡
7. 大門の渡船場
8. 水郷川
9. 大里学校
10. 命塚

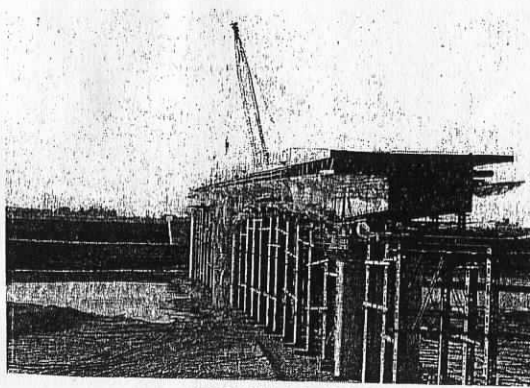


- 八十八号・矢作川河床遺跡
- 八十九号・八劍神社
- 九十号・八劍神社の薬師堂
- 九十一号・八劍神社の神々
- 九十二号・八劍神社の祭礼
- 九十三号・八劍神社の氏子
- 九十四号・上里神社
- 九十五号・続・上里神社
- 九十六号・学区の神社
- 九十七号・慈雲寺と大円寺
- 九十八号・村人の信仰
- 九十九号・地名から
- 百号・焼夷弾投下
- 百一号・続・焼夷弾投下
- 百二号・戦時中の学区

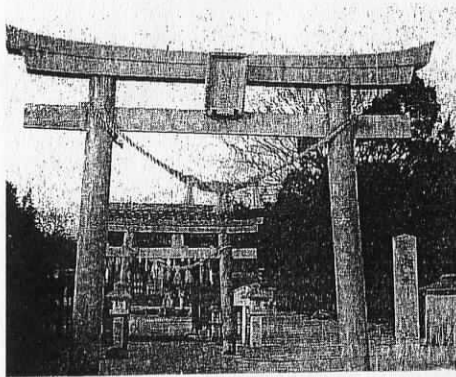
- 百三号・なす苗組合
- 百四号・続・なす苗組合
- 百五号・学区人物史伝
- 百六号・続・学区人物史伝
- 百七号・大門村儉約規定
- 百八号・続・儉約規定
- 百九号・命塚
- 百十号・続・命塚
- 一号〜四十三号
- 昭和六十二年一月九日〜三月五日
- 四十四号〜八十二号
- 平成元年一月九日〜二月二十八日
- 八十三号〜百十号
- 平成元年九月二十一日〜十月二十八日



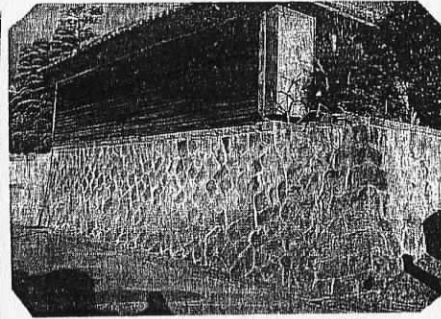
▲上大門・八剣神社にある  
足利尊氏石宝塔 (61号)



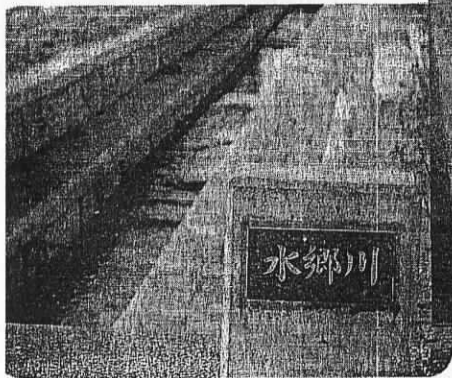
▲建設が進む岡崎大橋  
(73号・74号)



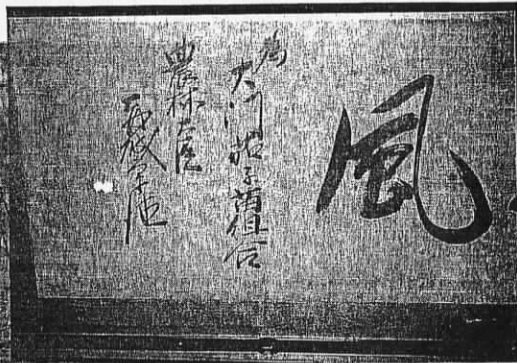
▲八剣神社 (89号)



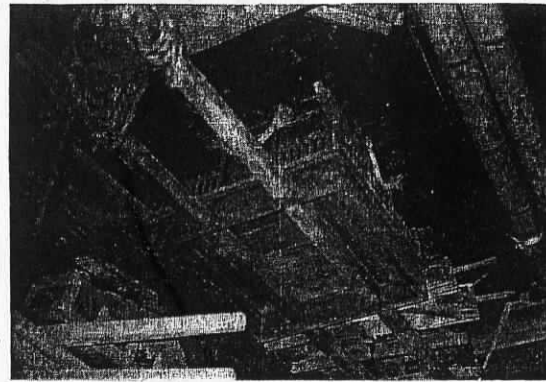
▲大樹寺の命塚 (109号)



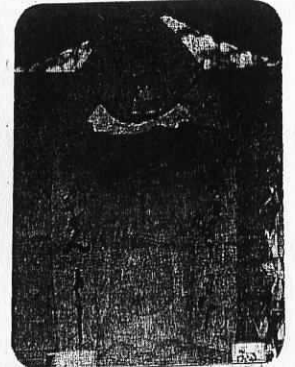
▲水郷川 (83号)



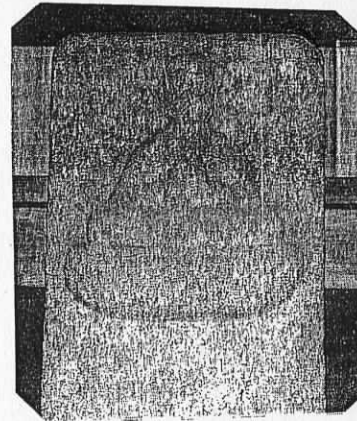
▲大門なす苗組合下大門公民館に  
ある農林大臣の書 (103号)



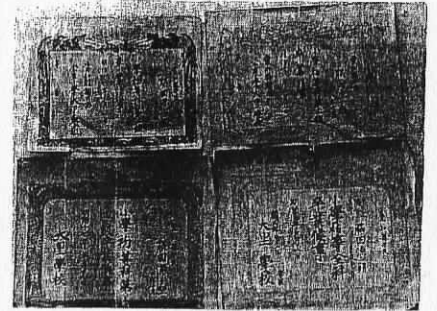
▲敷田の御田扇祭のみこし (11号)



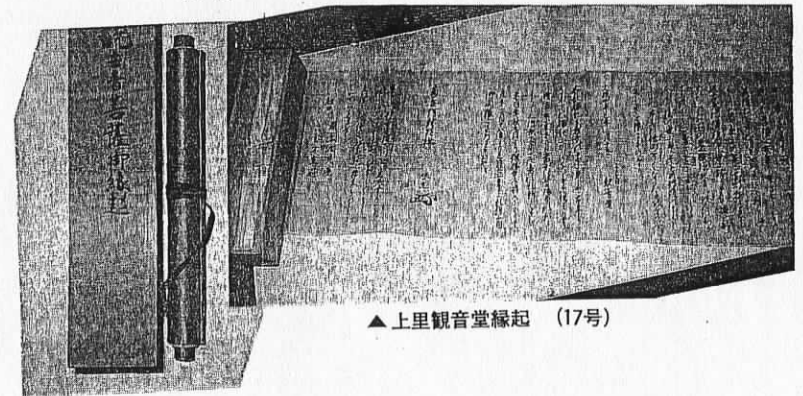
▲大樹寺天満宮のお地藏さま  
渡船場の道しるべが刻みこ  
まれている (4号)



▲上里・辻の地藏  
(5号)



▲大里学校卒業証書  
(32号)



▲上里観音堂縁起 (17号)

# 学区探訪

郷土室だより  
一・九  
一 号

上里のある老人から次のような話を聞きました。

『私が五・六才のころは、まだ電灯がなくランプ生活をしていたよ。私もランプ掃除をしたことがある。また、私は小学校の時、大樹寺小学校まで半里の道のりを歩いて歩いて通った。その服装はかすりの着物にぞうり・げただった。式の時にははかまをつけていった。そして、春大樹寺小学校の校門からはるかに北を望

べば、一面の菜の花ざかり。視界をさえぎるものは、わずかに大樹寺と藪田の集落のみ。その広がる黄色の向こうにまっ青な矢作川の堤防を見ることができた。そして青い堤防の向こうを、白い帆に春風を受けた荷船が悠々と航行していた』  
六十年前の学区のようすが絵のように頭に浮かんできます。青い堤防に白帆の船。矢作川に抱きかかえられた農村。昨年十一月の文明展をきっかけに学校に郷土室ができました。学区のことを調べ、まとめていきたいと思えます。ご協力をお願いします。

# 学区探訪

郷土室だより  
一・十  
二 号

## 大門の渡し

日名橋ができるまで、大門には渡船場がありました。場所は大門三丁目、大円寺のすぐ西で、ここから対岸の北野へ渡し船が出ていたそうです。この渡し船は定期便ではなく、客が堤防まできて「ホーイ、ホーイ」と呼ぶと船頭さんが出てきて船を出してくれました。なかには、わらをもつてきて堤防で縄をないながら客を待つ船頭さんもいたそうです。

大門村には大正ごろまで専属の船頭さんがいましたが、この人が年をとってからは大門村の村人の当番制になりました。つまり大門の人はみんな船頭をやらなくてはならないのであり、三か月に一度ぐらい当番がまわってきました。大門の村人は矢作川で育った人たちなのでみんな渡し船を出すことぐらいできたのです。しかし、なかにはどうにもへたな人がいて、お金で人に頼んだそうですが、たいていの人は自分で船頭をやりました。うまく竿をあやつって船を渡したそうです。

# 学区探訪

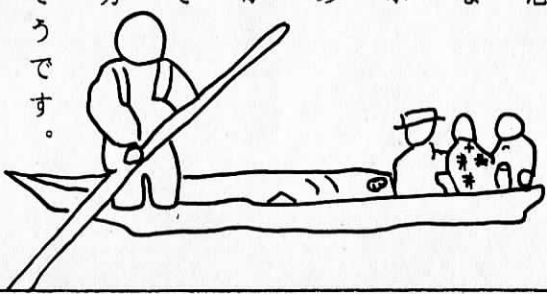
郷土資料  
一・十二  
三号

続・大門の渡し

大門の渡しは『一岸の渡し』でした。一岸の渡しとは、一方の岸の村だけが船を出す役を負うのです。ですから大門の渡しでは大門村が船頭を出し、北野村は船頭を出しません。ですから北野からこちらへ渡る人も向う岸から「ホーイ、ホーイ」と大きな声で大門の船頭さん呼びました。

大門の渡し船の大きさは約三間（約五・五M）、十〜十五人ぐらい乗れました。渡

船料は、片道で大人一人二銭、自転車一台五銭でした。大樹寺などで行事があるとたくさんの人が渡るのもうかったそうです。そこでみんなそういう日に船頭の当番がまわってくると思います。客はみんな堤防まできて「ホーイ、ホーイ」と船頭さんを呼ぶのですが、朝早い時などなかなか出てきてくれないので着物のすそをまくって自分で渡ってしまう人もいたそうです。



# 学区探訪

郷土資料  
一・十四  
四号

上里の渡船場

大樹寺にある天満宮の境内にお地藏さまがおかれています。その仏像の左右に、「右・むねさだわたし」「左・だいもんわたし」と道しるべが刻みこまれています。おそらくこのお地藏さまは昔、大門渡しへ通じる道と宗定渡しへ向う道との交差点あたりにおまつりしてあったものでしょう。この道しるべによると、大門の渡しの他に学区にはもう一つの渡船場があったと考えら

れます。宗定の渡しは上里と豊田の宗定を結ぶ渡船場でした。ここも一岸の渡しで宗定村が船を出す役でした。矢作川に天神橋がかかるまで船が出ていたそうです。渡船場の位置は上里一丁目の堤防沿いに竹やぶのある所、昨年的大门カーニバルでおいもを食べたあたりです。ここの渡船場は、岡崎―豊田―猿投をつなぐ軍事上の拠点で、そのためここを守る農兵たちがいました。その頭が上田惣兵衛という人でした。今も上里一丁目には上田姓の人がいますが惣兵衛の子孫にあたるのでしょうか。